

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえずり公園

第14号 2006年9月30日発行 発行；麻生多摩美の森の会
発行責任者；勝田 政吾 編集者；木村 信夫

秋の森の観察 くつつく草の実の生きるドラマ 自然観察指導員 高橋 英

もてない貴方にも、もてもての貴方にも、ひっついちゃうぞ～、くつついちゃうぞ～、と通りがかる人を待っている「ひつつき虫」の私たち。そう、虫は虫でも、皆さんお馴染みの草の実です。そんなイヤな顔しないで、秋を謳歌する姿、命をつなぐ営みを見つめて下さい。木陰を彩る森の仲間なんですから。

ダントツのひつつき虫は、私イノコズチ。市民健康の森には、ヒナタイノコズチとヒカゲイノコズチがあるけど、ひっくるめてイノコズチでいいわ。9月頃、3mmくらいの小さな花が咲きます。知る人ぞ



知る「気品のある花」なので、ルーペでのぞいてみてね。未熟の実が花穂にぴったりついてタテに並んでいるさまは、突進している猪の子のようだって。実が熟すと、根元から出ている2本の針状の突起物でくつつきます。突起物は外側に反りかえっていて、これでしっかりつかまるから、どこかいいとこ連れてってね。

お次は私、チヂミザサで～す。葉の形は

コブナグサに似てるけど、花がミニミニほうき形ならコブナグサ。私は、ミニミニ笹の葉で縁が縮れ、花序は10cm前後で、枝を分け、それに小さな花が咲きます。こっちもルーペでよく見てね！ 雌しべは薄ピンクでブラシ状、雄しべは紫色の葯を細い糸でたらしめて、花粉を飛ばすんです。これぞ芸術的な技だと、自慢しているんですが、どうでしょう？ 実はチカチカしてズボンにも動物の毛にもくつつくので嫌われものだけど、紫色した芒が私の武器なんです。これから粘液を出して、刺し込んだらさらに粘液で接着するという術なの。払ったくらいでは離れませんから、よろしくね。

秋は実りの秋っていうけど、野草も樹木も何百万年にもわたって生存のために改良と工夫を重ねてきた技をもって、子孫をふやす大事な季節。毛や翼をつけ風の力を利用して飛ぶもの、水の力を利用するもの、鳥やアリやリスなどに運ばれるもの、ドングリの仲間のように重力で落ちるしか技のないもの、種子を弾き飛ばす弾糸までつくってしまったキツネノマゴ、などなどがあり、多技多彩だ。

とにかく、野に、山に出よう。百草百木は命のリレーに厳格に生きている。そこは、われわれにとって心のふるさと、命のふるさと。おおらかに、のびやかに、草木の営みと触れあおう。

西生田小3年生 森の自然観察

副会長 平林 謙三

7月7日(金)西生田小学校3年生 160名が総合的学習の一環として、自然観察の授業を行うために多摩美の森にやってきました。幸い当日は梅雨の中休みで時々薄日も射す天気、子ども達は元気一杯、森を探索して廻りました。

当日は指導員として麻生多摩美の森の会から岡村さん、小座間さん、勝田佳代子さん、間野さん、平林、それに「まちはミュージアム」から草野さんが参加され、子ども達の指導に当たりました。

最初に平林が、森の自然を観察する時は目、耳、鼻、舌、手の5感をフルに活用するように話しました。そして、今日は森の木を良く見ること、小鳥の声、葉っぱのささやきを聞くことを伝え、特に課題として、次の感覚による観察を行ないました。(1)クヌギとコナラを見分ける。それには葉や幹の形を良く見て、手で触ってみること。大きな木と若木では葉は同じでも幹の手触りが違うことを確かめる。(2)クリの木に小さな実の赤ちゃんがたくさんなので、手で触って棘がまだ柔らかいことを確かめる。(3)キハダやクスノキの葉を揉んで他の木の葉と違う良い匂いがすることを確かめる。舌についてはこの時期、この森に適当な実がないのでカット。

子ども達は大喜びで、数名ずつ仲良しグループに分かれ、森を歩き廻って木々の葉や枝を触り、ついでに虫や蛇を見つけて触っていました。そして、色々な形や大きさの葉を集め、写生したり名前を確かめたりしました。ちょうどヤマユリがきれいに咲いていたので、それを上手に写生した子どもいました。

区民会議がスタートしました！

今年から麻生区の区民会議がスタートしました。各区の地域社会がもっと住み良い町になるための様々な課題の解決を図るため、調査と審議を区民が行い、その方策を区長に報告し、実行してもらうための会議です。委員20名と、参与(麻生区選出の県議会・市議会議員)9名が参加し、年に4回開催されます。

第1回は7月27日(木)に開催。委員20名には『緑の保全・・・』『防災・・・』『福祉・・・』『教育・・・』など7分野で活動している団体から推薦された者が含まれ、『緑の保全、ごみの抑制など自然環境又は生活環境を向上させる分野』では当会も加盟している里山フォーラム世話人会代表の平林(当会副会長)が推薦され、委員として出席しています。会議は現在、取り上げるべき課題は何かの議論の段階です。皆さん、ご希望がありましたら、区役所総務企画課または平林までお申し付けください。

次回は10月13日(金)午後3時から区役所4階会議室。傍聴自由ですので、興味のある方はぜひお出で下さい。(平林記)

ヤマユリが咲きました 岡村 克彦

夏の訪れと共に森陰に人知れず咲くヤマユリを、ふと見かけた時の喜びを身近に感じたいとの願いで、この2、3年市民健康の森で球根の植栽を続けてきました。会費と区の寄付で球根を用意し、皆の協同作業で、今年はやっと適所を得て、2ヶ所(小屋の横で14株、東斜面下で2株)で16株に花が咲きました。

ヤマユリは日本の固有種で「神奈川県の花」に指定されており、欧米でも人気を博しています。以前はこの辺りの林縁や斜面地にかなり自生していたそうですが、今ではごくまれにしか見かけなくなりました。そこで、元の姿に戻そうと努力しておりますが、残念ながら1株持ち去られてしまいました。

市民共有のこの森の「みどり」を大切に守り、次世代への遺産としてバトンタッチして行きたいと願っています。



わたしの部屋 中央アジアを歩く旅 森 正

昭

中央アジアのトルクメニスタン・ウズベキスタン・カザフスタン一帯は、雨が少ない乾燥地帯で、ステップまたは砂漠が広がっている。

私は学生時代のワングル仲間とロンドンから東京に向けて歩く旅を10年前より続け、交代で歩きながらトレースを東へ延ばしてきた。そして、2002年から2004年にかけて、この地域の一部を歩いた。

トルクメニスタンとウズベキスタンの砂漠地帯は、年間降水量は数十mmと言われている。砂漠というと、すぐに童謡の「月の砂漠」を思い出す。しかし実際に歩いて見ると、この一帯では、砂丘が続くような場所は皆無に近く、石がごろごろした礫砂漠か、土で覆われた土漠となっている。トルクメニスタンでは乾燥に強いザクサウルという木が多数見られた。葉は長さ10cm位の袋状となっており、高さ数mになる。ガイドの話では根は30mから100mに達するという。100mには？が伴うが、地下水脈まで根を伸ばしているのだろう。この荒野では、羊やラクダを追う牧童に出会うくらいだ。

* * * * *

ウズベキスタンに入ると、綿花や小麦、ブドウの畑が広がっている。ヒンズークシ山脈に源を発するアマダリア河からの灌漑水を利用して、ソ連時代に広大な農地を生み出した。私が歩いた秋の時期には、それこそ国民総出で綿花摘みをしていた。

最近ではこの灌漑水が岩塩層を溶かし塩害を起こしていると聞いたし、二つの大河が流入するアラル海は、灌漑により水が奪われ1/3程度の面積に縮小、漁業は壊滅したとい

う。

昔、シルクロードの交易で栄えたサマルカンドやブハラは、今もアマダリア河の水によって人々の生活が支えられている。

* * * * *

カザフスタンは、高原で緯度が北にあることから年間降水量が400~600mmだが、大部分が草原で大きな木は育たず、国道沿いに植林されたポプラや白樺、柳のような種類しか見られない。

晴天のある朝、直線の道路を歩き始めた。養蜂家のトレーラーが点在する地域を離れると、左は地平線まで原野で右にはポプラの並木が連なっていた。その木々を見ると、丸い鳥の巣が1本の枝に何10と連なっている。木が少ないため、鳥の団地となっていた。春にはどんな鳥がここに巣作りするのだろうか。

* * * * *

石ころだらけで緑のない土地や、低木がまばらにしか生えていない地域から日本に戻って、緑を目にすると、なぜか心が安らぐ。恐らく緑豊かな国土に育った血のせいであろう。そして、豊かな自然に恵まれた地に住める幸せに思うと共に、自然に反する開発が後に大きな問題を起こすかもしれないことも記憶すべきであろう。



羊飼い・ザクサウールの林

星空に歓声あがる

オーロラ天文台 小川 誠治

8月5日(土)、オーロラ天文台主催による、「星空のまちづくり 第8回星を楽しむつどい」が麻生区市民健康の森を会場として開催され、約90人の市民が参加されました。

オーロラ天文台というのは多摩美1丁目にあり、6年前に小川が自宅の改築に合わせ建設したものです。以来、毎年同天文台で星を見るつどいを行ってきましたが、今回初めて会場を野外に移して開催いたしました。18cm反射望遠鏡など3台を渋谷星の会のメンバーが持参し、皆様に星をお見せしました。

さっそくお月様を見ました。参加者からは「これは、スゴイ」とか「こんなにデコボコが見えるのか」といった驚嘆の声があちらこちらから聞かれました。また、西空に見える木星表面の縞模様とその衛星、七夕の星であること座のベガなどをご覧いただきました。

開催にあたり、会場の草刈を始め、広報活動や星座早見盤のご提供、会場の看板製作、会場案内などで地元の各町会や麻生多摩美の森の会の皆様に絶大なご協力をいただきました。紙面をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

多摩美地区は市内でも星空のよく見える地域のひとつです。都内からきた星仲間からも、「暗い星が見える」と喜ばれます。これもひとえに皆様の活動のお陰と感謝しております。今後も皆様とともに星空のまちづくりを進め、美しい緑を守っていきたくと存じます。



秋冬の活動予定 副会長 平林 謙三

豪雨と暑さが際立った今年の夏も終わり、さわやかな秋の季節になりました。いよいよ収穫の時期です。植樹祭&収穫祭をはじめ楽しい行事がたくさん続きます。ぜひご家族でご参加ください。

活動日と作業予定は次のようになります。作業時間は10月から10時~12時となります。

10月7日(土) 草刈、苗木・畑の手入れ

10月15日(日) サツマイモ・蕎麦の収穫、
麦蒔きの準備

11月4日(土) 里芋の収穫、麦蒔き、
植樹祭・収穫祭の準備

11月19日(日) 植樹祭&収穫祭 当日が
雨の場合は23日(祭)に延期

12月2日(土) 草刈、苗木・畑の手入れ

12月17日(日) 草刈、苗木・畑の手入れ

1月6日(土) 新春初仕事

1月21日(日) 炭焼きの準備

(注)第2、第4水曜日。11月12日~18日には必要に応じて、追加の作業、植樹祭の準備を行うことがあります。

“2006 植樹祭&収穫祭！”

みんな来てね~!!

日時：11月19日(日)9時~13時 雨天の
とき23日(祭)に延期

会場：麻生多摩美の森と多摩美公園

植樹：実のなる木を中心に

楽しい遊び：木の葉染め、どんぐりの飾りも
のなど、森の恵みで作品づくり

収穫祭：乾杯と懇談、焼き芋・焼き栗、多摩
美の森の里芋入り豚汁

懇親会：会場片付け後(実費個人負担)

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

連絡・投稿先

木村信夫 044-954-7855

fwhp6921@mb.infoweb.ne.jp

森 正昭 044-951-1089

BYA15610@nifty.com